

2024_1230「地平線ぎりぎりのオリオン座（動画）」日々の理科 3798号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

北緯 67 度の北極圏では、日本での星座の見え方は大きく異なります。北極星（ポラリス）の高度は約 67 度で、天頂よりも少し下に見えます。はくちょう座、こと座などの天の北極から 67 度以内の星座、つまり「赤緯 23 度 N 以上の星座」はすべて「周極性」となり、白夜の時期を除けば一年中見えます。

反対に、天の北極から遠い星座は、常に地平線下か地平線ぎりぎりにしか見えません。たとえば、いて座やさそり座は北極圏では常に地平線下で、観望できません。「天の赤道（赤緯 0 度）」付近に位置するオリオン座も、北極圏では地平線ぎりぎりで、南中時にやっと全部見えるという程度です。

この動画は、東側に設置したカメラの映像です。最も明るい星は「木星」、木星の右下の赤い星がおうし座の「アルデバラン」、その左下にオリオン座が見えます。左端の赤い星は「火星」、その右下がこいぬ座の「プロキオン」、火星の右上が「ふたご座」です。時々画面が明るくなるのは、国道を通過する自動車の灯火です。最後には淡いオーロラも出現します。

(2024 年 12 月下旬 / スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス / 東京から遠隔観測)

